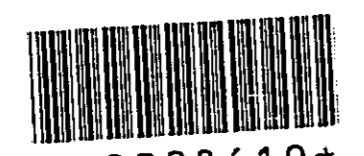


各地方マラリアニ關スル概況
ニ於ケル

内務省衛生局

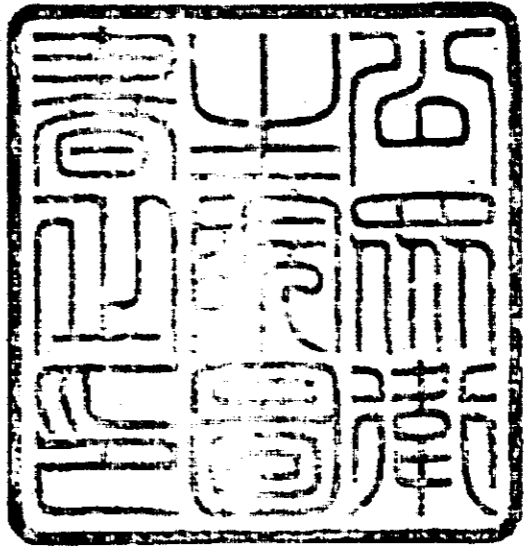
国立保健医療科学院蔵書



10008619

昭和11年11月
川上理一先生
寄贈
厚庄堂

NHC
④
28



7549

凡例

本編ハ本邦「マラリア」ノ狀況ニ關シ大正七年十二月九日附衛發
第八八九號衛生局長照會ニ對スル各地方長官ノ回答ニ基キ左
記事項別ニ調査編纂セルモノナリ但シ該當事項ナキモノハ之
ヲ省ケリ

- (一) 「マラリア」ノ蔓延狀態
- (二) 「マラリア」ニ關スル調査成績
- (三) 「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態
- (四) 「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較
- (五) 「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

7549

- (六) 「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係
- (七) 將來ノ計畫
- (八) 其ノ他參考トナルヘキ事項

大正八年四月

保健衛生調査室

各地方「マラリア」ニ關スル概況目次

緒言	一頁	(一一) 千葉縣	一一二頁
(一) 北海道	二〇	(一二) 茨城縣	一一二
(二) 警視廳	二五	(一三) 栃木縣	一一三
(三) 京都府	二六	(一四) 奈良縣	一一二
(四) 大阪府	三一	(一五) 三重縣	一一二
(五) 神奈川縣	三一	(一六) 愛知縣	一二八
(六) 兵庫縣	三一	(一七) 静岡縣	一三三
(七) 長崎縣	三一	(一八) 山梨縣	一三九
(八) 新潟縣	三四	(一九) 滋賀縣	一四〇
(九) 埼玉縣	六〇	(二〇) 岐阜縣	一四九
(二〇) 群馬縣	六二	(二一) 長野縣	一五三

(二二) 宮城縣……………	一五四	(三五) 山口縣……………	一七七
(二三) 福島縣……………	一五五	(三六) 和歌山縣……………	一八〇
(二四) 岩手縣……………	一五五	(三七) 德島縣……………	一八一
(二五) 青森縣……………	一五六	(三八) 香川縣……………	一八二
(二六) 山形縣……………	一六〇	(三九) 愛媛縣……………	一八三
(二七) 秋田縣……………	一六一	(四〇) 高知縣……………	一八三
(二八) 福井縣……………	一六一	(四一) 福岡縣……………	一九四
(二九) 石川縣……………	一六八	(四二) 大分縣……………	一九四
(三〇) 富山縣……………	一六八	(四三) 佐賀縣……………	一九五
(三一) 鳥取縣……………	一七一	(四四) 熊本縣……………	二〇五
(三二) 島根縣……………	一七三	(四五) 宮崎縣……………	二一二
(三三) 岡山縣……………	一七四	(四六) 鹿兒島縣……………	二二三
(三四) 廣島縣……………	一七五	(四七) 沖繩縣……………	二二二

各地方「マラリア」ニ關スル概況
ニ於ケル

保健衛生調査室編纂

緒言

本編ハ各地方ニ於ケル「マラリア」蔓延ノ狀況ノ一端竝之ニ對スル各地方廳ノ調査狀況ヲ知ランカ爲衛
生局長ヨリ各地方長官ニ照會ヲ發シ其ノ回答ニ基キ編纂シタルモノナリ、中ニハ照會ノ主旨ヲ惡性「マ
ラリア」トノミ解シ我邦在來ノ瘧ニ及ハサリシモノモアルカノ如ク察セラレサルニアラス、仍テ之ヲ
以テ我邦「マラリア」ニ關スル總ヘテヲ悉シタリトハ云フヘカラスト雖モ各地方ニ於ケル調査ノ現況ヲ
窺フノ資料タルニ足ルヘク、既ニ夫々調査シ其ノ施設ヲ怠ラサル地方ノ狀況ハ又以テ他ノ參考ニ資ス
ルヲ得ヘキカト信ス、則今之カ概況ヲ綜括シテ通覽ノ便ニ供セントス

各地方「マラリア」ニ關スル概況一覽表 (大正八年七月調査)

道府縣名	蔓延狀態	調査表	病源地ト認ムルモノナシ	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ
道府縣名	「マラリア」ニ關スル調査成績	管內ニ於テ蔓延ノ状態ト見ルモノナシ	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
「マラリア」病源地ノ保健康態	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
「マラリア」病源地ト無病地トニ於ケル比較兵合格率ノ	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
「マラリア」豫防撲滅ニ對スル施設	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
「マラリア」豫防撲滅事業等ニ關スル經費	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
將來ノ計畫	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ
其ノ他參考事項	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	管內ニ於ケル本病ハ殆ト散發的ニシテ特ニ病源地ト認ムルモノナシ	大正七年「マラリア」患者調査表	蔓延ノ事實ナシ	蔓延ノ事實ナシ

大阪	神奈川	兵庫	長崎
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	大正五年以降本病患者ノ發生アリタルモ右ハ支那、朝鮮、臺灣其ノ他ノ地方ヨリ歸來シタルモノ多ク土着性ノモノハ殆ト稀ニシテ蔓延シタルノ傾向ナシ
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	本病患者ノ調査成績ハ別表自大正四年至大正六年「マラリア」患者種類別、職業別、年齢別調査ニシテ之等ノ
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	本病流行ノ稍顯著ナル病源地トシテハ上記ニ示ス如ク中、西、南、北蒲原ノ四郡ヲ劣リ殊ニ西蒲原郡ノ如キ
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	患者ハ八%以上ヲ算スル病源地ニ於ケル徵兵合格率ハ他郡ニ比シテ甚
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	本病發生ノ濃厚ナル地方ノ住民ニシテ下水等ニ石油ヲ流シ蚊ノ撲滅ニ努ムルモノアルモ一般的
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	將來患者發生ノ場合ハ其狀況ニ依リ技術員ヲ派遣シテ其ノ地方ニ於ケル「マラリア」蚊ノ存在ニ注意スルハ勿論其ノ他適切ナル豫防法ヲ講ジテ撲滅ヲ圖ラン
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	本病發生地ニ於ケル排水池ノ改良乾固其ノ他一般町村ニ於ケル下水溝渠水溜等ノ改造及夏季ニ
該當事項ナシ	該當事項ナシ	該當事項ナシ	本病患者ハ一般ニ醫師ノ診療ヲ受ケルモノ尠クシテ民間藥、所呪或ハ神社ノ守

南、北蒲原ノ 四郡ニ亘ル之 等ハ何レモ信 濃川流域ヲ中 心トシ低濕ニ シテ洪水池沼 多ク加フルニ 屢々河水氾濫 ノ厄ヲ見ル地 方ナリ	査表ニ示スカ 如シ而シテ調 査方法トシテ ハ調査用紙ヲ 作製シ各警察 署、公私立 病院及開業醫 師ニ夫夫小票 ヲ配布シ三々 年間診察セル 患者ニ付キ記 入報告セシメ 之ヲ基礎トシ テ調査シタリ 然レトモ縣下 ノ本病ハ概シ テ輕症ニシテ 醫治ヲ受クル ニ至ラスシテ 民間藥其ノ他 ノ方法ニヨリ テ治療スルモ ノ多キカ故ニ 正確ナル患者 數ヲ調査シ得 サリキ	地方ハ土地卑 濕加フルニ年 年數回ノ河水 氾濫ヲ來タシ 然ラサル時ト 雖モ田面ニ滯 水ノ絶ユルコ トナク諸所池 沼散在シ衛生 状態一般ニ不 良ノ如ク總死 亡モ亦他郡ニ 比シ多數ヲ算 スルノ狀況ナ リ	ハ縣下最劣等 ノ成績ヲ呈セ リ反之本病ノ 發生少ナキ中 東頸城兩郡ノ 如キハ最優良 ナル狀況ナリ	施設トシテハ 未タ何等見ル ヘキモノナシ	於ケル石油ノ 原油撒布ヲ督 勵シテ蚊族ノ 發生ヲ防キ務 衛生講話會等 ニテ本病ニ關 スル豫防警戒 上ノ智識ヲ啓 發シ尙本病ノ 特效藥タル 「ヒニン」ヲ實 費ニテ配付ス ル等ノ方法ニ 付考慮中ナリ	札幌前ノ水 ヲ吞ム等ノ 方法ヲ行フ モノ多シ
---	--	---	--	----------------------------	--	---------------------------------

埼玉	特ニ蔓延ノ事 實ヲ認メサル モ北埼玉郡利 島、川邊ノ兩 村ニ於テハ每 年五月ヨリ九 ノ候ニ發生シ 而カモ家族ニ 傳染シ附近交 通者ニ及ホシ 小學兒童ノ如 キ日々二三名 ノ罹患者ヲ出 スノ狀況ナリ	自大正五年至 大正七年「マ ラリア」ニ關 スル調査表	上記地方ハ低 地濕潤ニシテ 毎年ワイル氏 病ノ發生アリ テ各所汚水停 滯シ飲料水亦 極メテ惡シク 衛生状態不真 ノ農村ナリ	利島、川邊ノ 兩村ト近接村 タル東、原道 トノ比較調査 表	ナシ	ナシ	大正八年度以 降保健調査機 關ヲ設置スル カ故ニ實地調 査ヲ遂ケ一般 的並ニ個人的 豫防施設トシ テ衛生設備ノ 完成内服藥等 適宜ノ手段ヲ 行フ豫定ナリ	ナシ
本病蔓延ノ最 モ濃厚ナリト 認メラル、村 ハ邑樂郡東 部、西谷田、伊 奈貝、大筒野、 大島、海老瀧、 郷谷、赤羽、 千江田、六郷、 波瀨ノ十ヶ町 村ナリ而シテ モ多町村ハ多	自大正二年至 大正七年「マ ラリア」患者 調査表 本調査ハ所轄 警察署ニ指示 シ駐在巡查ナ シテ調査セシ メリ	地勢概シテ低 地ニシテ雨季 ニハ殊ニ洪水 多ク蚊族ノ發 生ヲ補長スル ノ狀況ナリ而 シテモ住民一 般ノ保健状態 ハ不真ト云フ 程ニモアラサ ル如シ	本病濃厚地タ ル邑樂郡ハ縣 下第一低位ニ アリ	大正六年初夏 左ノ方法ヲ行 ヘリ 一、マラリア 豫防心得書 ノ配布本病 豫防心得書 ヲ印刷シ郡 内毎戸ニ配 布シタリ 二、キニーネ 劑ノ試用	四二〇〇〇〇	早期治療ヲ主 トシ自衛心ノ 換起ヲ從トス ルノ方針ナリ	鹽驗「キニ ーネ」服用 心得「マラ リア」ニ關 スル地方的 迷信	

群馬

敷患者ノ發生
ヲ免ル、ノミ
ニシテ郡内二
十二ヶ町村中
本病絶無ノモ
ノハ極メテ少
數ナリ

大正六年六
月縣費ヲ以
テ鹽酸「キ
ニ」ネ」チ
購入シ西谷
田、伊奈真
ノ二村中其
ノ部落ノ孤
立シ且戸數
四五十戸ノ
モノニ對シ
住民一般ニ
鹽酸「キニ
」ネ」チ連
用セシメタ
リ

三、講話
警察署チシ
テ各村ニ衛
生講話會ヲ
開催セシメ
縣ヨリ技術
員ヲ出張セ
シメ「マラ
リ」テ豫防
心得書ニ基

千葉

該當事項ナシ

茨城

該當事項ナシ

栃木

本病ハ縣下南
部即チ下都賀
郡及足利郡ニ
毎年多クノ患
者發生ヲ見ル
殊ニ下都賀郡
赤麻沼附近及
渡良瀬川沿岸
ノ各町村ニ多
シ

本病發生ノ多
キ町村ハ毎年
住民ノ約四分
ノ一ハ罹患ス
ルノ狀況ニシ
テ縣下ニ於ケ
ル本病患者ハ
毎年一萬二千
五百餘名ノ多
キニ上ル

病竈地ハ一般
ニ池沼多クシ
テ一般衛生狀
態良好ナラス
ト雖モ住民ノ
保健上ニ及ホ
ス影響ハ極メ
テ少ナシ

無病地ニ比シ
良好ナルカ如
ク本病ノ影響
ヲ受クルコト
ナシト認メラ
ル

ナシ

ナシ

キ住民ノ智
識啓發ニ努
メタリ

「ア」ノ「フ」エ「
」レ「ス」レ「蚊」ニ由
ルチ以テ其ノ
發生ヲ防止ス
ルハ豫防ノ第
一ナリト信シ
左記事項ヲ目
下計畫中
一、各月ニ於
テ附近ニ水
溜等ヲ作ラ
サルコトニ
注意スレコ
ト

二、溝渠汚水
溜等ニ蚊族
ノ發生時期

奈 頁

大正八年度ニ於テ保健衛生調査ノ際之カ調査ノ計畫中

三 重	本病ハ縣下一 二郡ヲ除クノ 外全帯ニ亘リ テ蔓延シツ、 フ、就中桑名 郡ノ如キハ病 蠱地ト見做ス ヘキモノ、如 シ	蚊ノ種類研究 成績表 醫藥人員數及 藥品賣上高調 査表 大正七年醫療 ヲ受ケタル 「マラリア」患 者調査表	地勢低地ニ比 シテ惡水ノ停 滯シキモ一 般の衛生上ニ 就テハ著シキ 差異ヲ認メス	無病地ニ比シ 影響ナキカ如 シ	市町村衛生組 合ヲ督勵シ毎 年蚊ノ發生期 ニ於テ時々下 水溝渠汚水、 溜溜場所其ノ 他蚊ノ發生ス ヘキ場所ニ團 體若ハ個人ヲ シテ石油撒布 ヲ行ハシメ又 一面財力ノ許 ス限リ下水道 ノ改修ヲ獎勵 シ大正三年以 降宇治山田市 松坂、鳥羽、	經費トシテハ 單ニ上記石油 及人夫料ニシ テ市町村又ハ 大字區費若ハ 衛生組合ノ負 擔トス 下水道改修費 ハ市町村費ニ ヨレルモノハ 傳染病預防費 ヲ以テ補助シ 其ノ他ニアリ テハ各大字ノ 負擔トセリ	從來施行シツ ツアル方法ヲ 續行セシムル ト共ニ上下水 道ノ改良、衛 生組合其ノ他 自治團體ノ活 動ヲ促シ又蠶 繭「メダカ」ノ 繁殖ヲ圖ルヘ ク計畫中ナリ	ナ シ
--------	---	---	---	-----------------------	--	--	---	--------

八
ニ於テ石油
劑ヲ撒布シ
之ヲ防止ス
ルコト
三、流行期ニ
ハ「キニ」
ネ「ノ」内服

愛
知

本縣ハ從前到 ル所本病ノ發 生ヲ見タリト 雖モ名古屋市 ノ如キハ下水 道布設後自然 同病患者ノ減 少ヲ來シ又八 名郡寶飯郡内 ノアル部落ノ 如キハ夏季夜 樂ヲ爲スカ爲 メ村民學ヲ附 近ノ沼池流渠 等ニ石油ヲ撒 布シ蚊族ノ發 生ヲ防止スル 結果近來概シ テ同患者減少 ノ傾向ヲ來セ ルカ如シ然レ トモ海部郡ノ	從來本病ニ關 スル詳細ナル 調査ナシ 大正七年中ニ 於ケル縣下 「マラリア」患 者數及人口ト ノ比例	病蠱地ト見做 スヘキハ海部 郡ニシテ本郡 ハ一般ニ低地 ニシテ蓮池、 沼池、溜池等 散在セルノ狀 況ニアルト雖 モ住民ノ保健 狀態ニ著シキ 異狀ヲ認メス	絕對無病地ナ ルモノナシト 雖モ北設樂、 八名兩郡ハ殆 ント無病地ト 稱スヘキ狀態 散在セルノ狀 況ニアルヲ以 テ 徵兵合格率ヲ 比較スルニ何 等著シキ關係 ヲ發見セス	何等施設シタ ルモノナシ唯 個人的ニ「キ ニ」ネ」ノ少 量ヲ内服スル モノアルニ過 ギス	龜山、神戸ノ 各町ハ既ニ工 事完成好果ヲ 收メツ、アリ	目下考究中	ナ シ
--	---	--	--	--	--------------------------------------	-------	--------

<p>如キハ一般ニ 低地ニシテ到 ル處雨水汚水 ノ滲溜ヲ來シ 所謂惡水路ト 稱スルモノノ村 内各所ニ散在 シ或レ部落ニ 於テハ屬子ノ 材料タル竹木 ヲ浸スヘク毎 戸ニ水溜ヲ設 ケル結果自然 蚊族ノ發生ヲ 促シ今尙本病 患者多數ニ上 ル本縣下ノ病 蠶地トモ稱ス ハキ狀況ナリ</p>	<p>本病蔓延流行 ノ病蠶地ハ四 遠地方就山縣 田郡及小笠郡 ニシテ多キハ 住民ノ五割前 後罹患スル如 キモノアリ</p>
<p>大正六年八月 磐田郡方面豫 防施設實行ノ 準備トシテ 「アノフエ ス」蚊ノ數率 ヲ數ヘ平均三 〇%内外存ス ルヲ認メタリ</p>	<p>代表的本病々 蠶地ハ小笠郡 横須賀町外二 ヶ村及磐田郡 幸浦村外六ヶ 村ニシテ之カ 保健状態ニ就 キ特記スヘキ 點調ヲ見ル迄</p>
<p>徵兵合格率ハ 大體ニ於テ差 異ヲ認メス</p>	<p>一般衛生展覽 講話會又ハ地 方改良講演會 等ニ於テ蚊ニ 關スル病毒傳 播ノ關係ヲ説 達シ居ル外大 正六年八月流 行地方ニ於ケ</p>
<p>特ニ計上シタ ルモノナシ</p>	<p>目下定案ナキ モアル機會ヲ 以テ流行町村 ニ對シ蚊族一 齊驅除法並豫 防服藥法等ヲ 試ムル見込ナ リ</p>
<p>上記病蠶ノ 住民ハ本病 ニ馴レ之ヲ 輕視シ醫治 ヲ乞フモノ 少ナク中ニ ハ規那皮ヲ 煎シ服用シ 又ハ茄子ヲ</p>	<p>食スレハ罹 病ヲ免カル ルトノ習俗 ノ存スルア リ</p>

<p>滋賀</p>	<p>山梨</p>
<p>本病ハ殆ント 各町村ニ蔓延 セリ殊ニ琵琶 湖沿岸ハ病毒 濃厚ニシテ湖 岸ヲ遠サカル ニ從ヒ漸次稀 薄トナル</p>	<p>本縣ニ於ケル本病ハ散發性ニシテ極メテ少數ナルヲ以テ該當事項ナシ</p>
<p>明治四十二年 ヨリ縣醫師會 ニ托シ本病患 者ノ治療數ヲ 調査セシメタ ルモ本病患者 ニシテ醫治サ 受クルモノ少 ナク正確ナル 數ヲ知ル能ハ ス</p>	<p>二至ラザルモ 概シテ「トラ ホーム」患者 率多シ又小笠 郡ハ全體ニ於 テ適宜飲料水 ニ乏シク十二 指腸虫ノ蔓延 又縣下最ヨリ 死産又多シ</p>
<p>病蠶地ノ住民 ノ多クハ幼時 ヨリ數回之ニ 罹サレ居ルヲ 以テ病狀輕ク 就床治療スル カ如キハ極メ テ少ナシ保健 状態ニ就キ詳 細ナル比較研 究ヲナシタル コトナキモ別 段差異ナキカ 如シ</p>	<p>徵兵合格率ハ 大體ニ於テ差 異ナキカ如シ</p>
<p>本病豫防心得 ヲ配付シ又衛 生講話、展覽 會ノ際本病ニ 對スル智識ノ 普及ニ努メ豫 防施設ノ實行 ヲ督勵シ居ル モ住民一體ニ 本病ニ對スル 觀念極メテ薄 ク其ノ主旨ノ 實行セラレサ ルハ遺憾トス ル所ナリ</p>	<p>蚊ノ驅除法 並之カ町村衛 生組合等ニ於 ケル施行方法 及治療豫防ノ 大體ヲ訓達セ リ</p>
<p>本病豫防ニ關 スル經費ヲ支 出シタルハ大 上郡彦根町ノ ミニシテ左ノ 如シ</p>	<p>本病豫防ニ關 スル經費ヲ支 出シタルハ大 上郡彦根町ノ ミニシテ左ノ 如シ</p>
<p>大正三年九〇 四年五六 五年二〇二 六年一五二 七年一八</p>	<p>同上</p>
<p>上記豫防事項 ノ徹底ニ努ム ル見込</p>	<p>ナシ</p>

岐阜	長野	宮城	福島
本病ハ縣下全 般ニ亘リ多少 ノ發生ハアル モ海津、羽島、 安八ノ三郡最 モ多シ	諏訪郡平野村 及上伊那郡、 伊那町赤穂村 七久保村中澤 村ニ數名ノ患 者アリタル外 最近數年間ニ 同病ノ發生ナ シ	該當事項ナシ	福島、若松ノ 兩市及郡山、 白河ノ如キ交 通滋キ地方ニ 年々七八十名 ノ發生ヲ見ル モ之等ハ殆ン ト他ヨリ來往 セルモノ旅行
大正六年度「 マリア」患 者表大正六年 中「マリア」 患者年齢別及 發生月別表	ナシ	上記ノ如キ状態ナルヲ以テ以下該當スヘキ事項ナシ	
本縣保健調査 ノ進行ト共ニ 調査スル見込 ナリ	影響ナシ		
大正七年度徴 兵検査成績表	ナシ		
第三項ニ同シ	春秋二季ノ消 潔施行ニ際シ 下水流渠汚水 溜等ノ掃除ヲ 嚴行セシメ蚊 ノ驅除撲滅ヲ 圖リツ、アリ		
ナシ	ナシ		
第三項ニ同シ	ナシ		
ナシ	ナシ		

岩手	青森
特ニ蔓延シタ ル狀況ナキモ 主ナル發生地 ハ風仙郡ナリ	大正五年以降 大正七年迄ノ 患者總數七百 十一人ニシテ 發生區域ハ一 市六郡三十六 ヶ町ニ亘リ漸 次蔓延ノ傾向 ヲ示セリ
自大正五年至 大正七年「マ リア」患者 調査表	特ニ調査シタ ルコトナシ
目下研究中	病源地ト認ム ヘキハ西津輕 郡車力村、上 北郡藤坂村、 六月村ノ三ヶ 村ニシテ車力 村ハ岩木川ノ 下流十三湖ニ 沿ヒタル部落 ニシテ大部分 ハ土地低濕ニ シテ衛生上不 良ノ地勢ナリ 藤坂村、六月 村ハ何レモ隣 接部落ニシテ 車力同様衛生 上不良ナル地
以下該當スヘキ事項ナシ	上記車力村ハ 郡ノ平均率ニ 比シ低率ヲ示 スモ他ノ二村 ハ平均率ヨリ 高率ヲ示セリ
	ナシ
	ナシ
	適當ノ時機ヲ 撰ミ上記三村 ノ調査ヲ行ヒ 村民ヲシテ共 同治療ヲ爲サ シメムトス
	ナシ
	ナシ

島根	鳥取	富山	石川
ナシ	散在的ニシテ蔓延ノ狀況ナシ	毎年初夏ヨリ初秋ニ亘リ縣下各所ニ散發シ罹病者ハ多クハ小學兒童ナリト雖モ其ノ數僅少ニシテ特ニ蔓延ト認ムル如キ狀況ナシ	該當事項ナシ
自大正四年至大正七年「マラリア」患者調査表 醫師ニ於テ診	自大正四年至大正六年「マラリア」患者調査表	的ニシテハ比較的ニシタルコトナキモ一ケ年約千二百名ノ患者アリ	的ニシテハ比較的多數ノ發生アリトモ病程度ノモノナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
衛生講話會展覽會等ニ於テ注意ヲ喚起シ居レリ	ナシ	主トシテ虎列刺ノ豫防ニ策ヲ蚊虫類ノ發生ヲ防遏スル爲メ下水溝渠ノ改善、石油乳劑又ハ石灰ノ撒布、宅地周圍ノ排水樹木ノ伐採等ヲ實行セリ	配布不完全下水ノ排水溝ノ新設等ヲナシタリ
ナシ	ナシ	石油乳劑石灰使用料一萬三千五百三十三圓一錢	ナシ
ナシ	ナシ	上記ノ施設ヲ獎勵シ以テ蚊類ノ撲滅ヲ爲サムトス	ナシ
醫師會ニ對シ地方病ニ關スル諮問チナシタルモ「マラリア	ナシ	ナシ	ナシ

福井	秋田	山形
大正七年中ニ於ケル「マラリア」患者調査ニ示ス如ク坂井郡ノ人口千ニ對シ七八・八ヲ最高トシ吉田郡ノ七八・七南條郡ノ六七・〇之ニ次ク而シテ縣下平均率ハ三八・五ナリ	該當事項ナシ	該當事項ナシ
大正七年中「マラリア」患者年數及男女別 大正七年中治療方法ニ依リ分チタル「マラリア」患者表大正七年中發生月別ニ依リ分チタル「マラリア」患者數	目下調査中	勢ニシテ住民ノ保健状態ニ就テハ特ニ微スヘキモノナキモ死亡率ハ縣郡ノ平均ニ比シ高率ヲ示セリ
坂井郡芦原村 溫泉場、今立郡鯖江町、南條郡武生町、敦賀郡敦賀町等ニ於テ大正七年夏季每週下水溝渠ニ石油ノ散布水溜等ニ於テ魚ノ放飼「マラリア」豫防ニ關スル注意事項ノ印刷物ノ	目下調査中	
協議費芦原村四十圓、今立郡町村衛生費百六十三圓五十錢		
武生町各區協議費石油撒布ツアリ		
警察部長ノ訓示並指示ニ基キ蚊族撲滅ノ計畫中、又衛生講話會ニ於テモ一般ノ注意ヲ喚起シツ		
大正六年七月警察官署ニ對シ訓示ヲ發シ又大正七年六月開催シタル警察署同分署長會議ニ於テ指示スル所アリタリ		

山口	廣島	岡山
管下ニ於ケル 罹病者ハ南洋 方面、臺灣、朝 鮮等ヨリ歸來 セシ者ニシテ 蔓延ノ傾向ナ シ	ナシ	該當事項ナシ
最近五ヶ年間 ノ患者數ヲ調 査シタリ	最近二年間ニ 於ケル本病患 者ヲ調査シタ ルニ臺灣、朝 鮮等ヨリ歸來 シタルモノニ シテ縣下ニ於 テ發病セルモ ノハ比較的少 ナシ	豫シタル患者 數 大正五年 十三名 同 六年 十六名 同 七年 十八名
上記ノ次第ナルヲ以テ以下該當スヘキ事項ナシ	上記ノ次第ナルヲ以テ以下該當スヘキ事項ナシ	
		了レ病ノ蔓 延ヲ認メサ ル旨ノ答申 アリタリ

和歌山	徳島	香川	愛媛	高知
各都市ヲ通シ 累年多少ノ患 者發生スルモ 漸次減退ノ實 況ナリ	該當事項ナシ	ナシ	該當事項ナシ	最近五ヶ年間 ノ平均ニ依レ ハ高岡郡ヲ最 多トシ安藝郡 高知市之二次 ク
自大正二年至 大正六年、マ ラリアル患者 表		最近六ヶ年ニ 於ケル死亡者 ヲ調査セリ		最近五ヶ年間 ニ於ケル患者 數
		ナシ		ナシ
自大正二年至 大正六年徴兵 合格率		ナシ		大正七年徴兵 合格率
以下該當事項ナシ		ナシ		ナシ
		ナシ		ナシ
		ナシ		ナシ
	明治廿六年 ヨリ大正二 年マテ醫師 ヨリ届出テ タル患者總 數二十名乃 至三十名ナ リ	ナシ		ナシ

鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡
大正五年 三三名	本縣ニ於テハ主トシテ臺灣、南洋、滿鮮其ノ他ノ地方ヨリ罹病歸來セル患者ヲ散見スルノミニシテ該病々種地ト認ムヘキ地ナク從テ預防撲滅ニ關スル施設其ノ他ナシ	明治四十年ヨリ大正三年ニ至ル「マラリア」患者並死亡數ヲ調査シタルノ外ナシ	管下各郡市ニ散發シ居ルモ流行ニ至ラス	毎年五、六名乃至十名位ノ患者發生スルノミニシテ流行ノ狀況ナク從テ該當スヘキ事項ナシ	該當事項ナシ
同 六年 三一名	最近三ヶ年ニ於ケル「マラリア」患者年別別調査	其合格率ニ影響ナキカ如シ	病區地ト認ムヘキ事實ナキモ比較的病者多キ杵島、藤津ノ兩郡中ノ村落ハ土地濕潤汚泥多ク從テ蚊ノ發生多キカ如キモ保健狀態ニ關シテハ影響ナシ	ナシ	ナシ
同 七年 八〇名	自大正五年至大正七年徵兵合格率比較	ナシ	ナシ	未定	ナシ
本縣「マラリア」	保健調査會ノ事業トシテ調査及撲滅ヲ期スル計畫ナリ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	
本病有病地ハ八重山、宮古ノ兩郡ナルモ宮古ハ極メテ少ナシ八重山郡中ノ有病地ハ西表島ノ全部及石垣島ノ殆ント全部ナリ	「マラリア」患者ハ右ノ如クニシテ一市七郡ニ亙レルモ特ニ流行シタルコトナシ	八重山郡ニ於ケル風土病ニ對シテハ明治二十年以來調査ニ着手シ居レリ最近ニ於ケル有病地住民ノ健康診斷成績	病區地ハ概シテ未開地ニシテ住民ノ多クハ最低ノ生活狀態ニ満足シ居リテ豫防シ居リテハ何等自營ノ途ヲ講セサル狀況ナリ然レトモ保健狀態ニ付キテハ大差ナキカ如シ	壯丁百ニ對シ無病地ヨリ一乃至三名位少ナキカ如シ	嘱託醫監督ノ下ニ有病地ニ於ケル患者ニハ「キニーネ」ヲ施藥シ一面ヲ令テ以テ醫察署長ニ對シ下水、溝渠、住溜ノ整理、住家附近ノ清潔方法ヲ指導監督セシメタルモ住民衛生思想ニ乏シク實行困難ナルヲ以テ大正三年三月之ヲ廢止セリ	明治四十二年ヨリ大正二年マテニ要シタル經費一萬六千七百八十一圓弱ナリ	經費ノ負擔ニ堪ヘサルノ狀況ナルヲ以テ適當ノ方法ニ付攻究中
八重山郡ノ有志ニテ撲滅期成會ヲ創設シ當局ヲ補ケテ完全ニ該病毒ノ撲滅ヲ期セムトス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	

(一) 北海道

一、「マラリア」ノ蔓延状態

管内ニ於ケル「マラリア」患者ハ左表ノ通ニシテ蔓延ノ状態ト認ムルモノナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

左記調査表ノ如シ

三、「マラリア」病竈地ノ状況ト住民ノ保健状態

管内ニ於ケル本病ハ殆ント散發的ニシテ特ニ病竈地ト認ムルモノナシ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徴兵合格率ノ比較

前項ノ如ク病竈地ト認ムル程度ノモノ無之モ比較的患者ノ多キ地ト、無病地方トノ合格率ヲ對比ス
レハ

年 度 別	宗谷支廳管内 (マラリア患者人口 千人ニ付〇・〇六)	上川支廳管内 (マラリア患者人口 千人ニ付二・七七)
大 正 五 年	受檢人員ニ對スル百分比 不合 九一・九九 八・〇九	受檢人員ニ對スル百分比 不合 九三・八四 六・一六

大 正 六 年	同	同
不合 九二・六三 七・三七	同	不合 九二・八九 七・一七
年 度 別	函 館 區 (マラリア患者人口 千人ニ對シ〇・〇二)	札 幌 町 (マラリア患者人口 千人ニ付二・〇五)
大 正 五 年	受檢人員ニ對スル百分比 不合 九一・〇一 八・九九	受檢人員ニ對スル百分比 不合 九四・八九 五・〇一
大 正 六 年	同	同

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

本項ノ豫防撲滅ニ對シテ特ニ施設セルモノナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業ニ要セル經費關係

前項ノ如キ状況ナルヲ以テ特ニ經費ヲ要セシモノナシ

七、將來ノ計畫

既往ノ状況ニ鑑ミ特ニ計畫ナシ

「マラリア」患者調査表

(自大正五年二ケ年
至同六年)

河		浦		室		國		檜	
四		河		蘭		館		山	
計	上中河	計	靜新沙	計	勇室有	計	山危	計	檜
計	川原西川勝	計	内冠流	計	拂蘭珠田	計	越田	計	山
七、一、六七五	一一、八四三	一〇、九五二	一〇、九五二	一一七、五六八	三三、二〇四	四八、五一〇	四八、五一〇	二六、三〇四	四六、七七四
九一	二二	二七	二七	二九二	二〇七	二	二	三七	二
一・二七	一・〇二	二・四七	二・四七	二・四八	六・二三	一	一	一・四一	〇・〇四
九五、四九三	一四、〇八二	二〇、三五八	二〇、四六二	一一九、五六七	三五、〇九〇	二〇、六五八	二〇、六五八	二六、六一七	三四、四五二
二九五	一三	四七	一〇	二三五	一五〇	三	三	五六	三
三・〇九	〇・九二	二・三一	一・七〇	一・八一	四・二七	〇・一五	〇・一五	二・一〇	〇・〇九

三三

後	上				空			札			支	
	誌	川		上	知		幌			郡		
岩		中	上		空	兩	空	夕	計		千	厚
田	川	川	知	佛	戶	知	張	計	歲	田	狩	幌
四六、七七四	二〇四、五五九	一六、一四一	五五、八三一	二六七、一〇〇	四八、五二五	二四、八〇五	六四、六四八	一〇四、九一六	一〇、二三五	六、九五二	二六、八三六	六〇、八九三
二	五六六	四〇	一〇六	四九四	一〇五	三〇	二一八	一一六	一八	四	二〇	七四
〇・〇四	二・七七	二・四八	一・八七	一・八五	二・一六	一・二二	二・一八	一・一七	一・七六	〇・五八	〇・七五	一・二二
三四、四五二	一六三、九九九	六、一〇〇八	一〇二、九九一	二八三、二九三	四九、九〇〇	二四、八八七	六八、〇八三	九九、一七〇	一〇、八四〇	二七、〇二二	六二、三〇八	二七、〇二二
一三	二三一	一八	一三	二九〇	六四	九	六一	一七一	四七	三六	八八	八八
〇・〇九	一・四一	一・九三	一・一〇	一・〇二	〇・三六	一・二八	〇・九七	一・二二	四・三四	一・三三	一・四四	一・四四

三二

合	留 剪				宗 谷	網 走			釧 路			
	計	留 剪	留 剪	留 剪		計	網 走	斜 走	計	足 寄	厚 岸	白 糠
一、四〇八、三六二	四八、五一八	二四、六八九	二二、八二九	一六、〇一〇	二七、二六四	二七、二六四		五八、七九八	一七、八一七	七、五七九	三三、四〇二	
二、〇〇三	六	五	一	一	六	六	四	三九	一	一	〇・〇三	
一、四三二、四三九、一〇〇	〇・九〇	〇・二〇	〇・〇四	〇・〇六	〇・二二	〇・二二	〇・七〇	二・一九	〇・一三	〇・一三	三四、七六八	
一、六七五	二二	二	一	一	三一	一六	一九	二五	一	二	〇・〇六	
〇・七八	〇・〇八	〇・〇八	〇・〇六	〇・〇四	〇・五二	〇・〇二	〇・三二	〇・八〇	〇・三七	〇・三二	〇・〇六	

(二) 警 視 廳

一、「マラリア」ノ蔓延状態

管内ニ蔓延ノ事實ナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

大正七年中ニ醫師ノ診療セル患者ヲ調査セシニ左表ノ如シ

大正七年中「マラリア」患者調査表

地 名	患 者 數	地 名	患 者 數
東 京 市	七二七	小 笠 原 島	
八 王 子 市	一七	大 丈 原 島	
南 葛 飾 郡	一七	新 大 島	
北 葛 飾 郡	四六	三 津 島	
南 葛 飾 郡	五	神 津 島	
北 葛 飾 郡	一七	利 津 島	
西 葛 飾 郡	一	御 藏 島	
南 葛 飾 郡	一	合 計	九四七

(三) 京都府

一、「マラリア」ノ蔓延状態

府下ニ於ケル「マラリア」ノ蔓延状態ニ就テハ末々統計的調査ヲ行ヒタルコトナキモ紀伊、久世、綴喜及乙訓ノ四郡ハ「マラリア」病竈地トシテ以前ヨリ知ラル、蓋シ上記四郡ハ周廻四里餘ノ巨椋池ヲ圍繞シ加茂、桂、淀及木津ノ四川此所ニ會シ附近一帶ヲ濕地ト化シ居ルヲ以テナリ、從テ夏季蚊屬ノ發生夥シク「マラリア」感染ノ因ヲ爲スコト多ク該地方ニ於ケル地方病トシテ俗ニ虐熱ト稱シツツアリ、之ニ反シテ他ノ郡部ニ在リテハ概ネ山間ノコト、テ大ナル河川湖沼ニ乏シク「マラリア」蚊屬ノ養成ヲ爲ス地ナケレバ會々病毒ヲ携帯セラレタル他郷人ニ發病スルヲ見ルコトアルモ敢テ其ノ地方ニ流行スルコトナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

前記「マラリア」病竈地ノ四郡ニ在リテハ夏期殆ド地方病ノ如ク蔓延スレドモ「マラリア」ニ因スル死

亡者ヲ出スカ如キ慘害ナキト同地方ニ於ケル保健衛生上著シキ影響ナキカ爲當府トシテハ未タ之カ調査ヲ行ヒシコトナク從テ細密ナル成績ヲ有セサルハ遺憾トスル所ナルモ往年理學士宮島幹之助氏學術的研究ヲ該地方ニ於テ行ヒ業績ヲ公ニセルモノアレンハ參考上左ニ摘録スヘシ

久世郡淀町ニ於テ最モ早ク「マラリア」ノ發生セルハ二月十三日ニシテ比較的強キ症狀ノ「マラリア」ナリキ、其後五月迄ハ患者數極メテ少ク五月ヨリ以後ハ漸次其ノ數ヲ増シ七月ニ入りテ頓ニ「マラリア」患者ヲ發生スルニ至レリ、三週間ノ滯在中二十九人ノ「マラリア」患者ニ就テ一々其血液ヲ鏡檢セリ、其生産地ニヨリ區別スレハ五名ハ他郷人ニシテ餘ハ皆同地人ナリ但シ五名ハ丁年以上ノ大人ナリシモ殘餘ノ十九人ハ二歳乃至十四歳以下ノ幼者ナリ檢血ノ結果ニヨリ判スルニ淀地方ニ生レテ幼時幾回モ「マラリア」ニ罹リタル人ニアリテ早キハ唯一回ノ發作アリタルノミニテ平癒シ長キモ三回ノ發作ノ後ニハ特ニ「キニーネ」等ノ藥劑ヲ投セサルモ自然ニ治シ其症狀從テ輕シ且ツ此等ノ血液中ニハ寄生蟲ノ數極メテ少シ然ルニ幼年者ニアリテハ其症狀重クシテ少クモ三回以上ノ發作後ニアラサレハ自然ニ平癒スルコトナク中ニハ八回モ繼續スルコトアリタリ而シテ血中ノ寄生蟲モ其數頗ル多ク一視野ニ五乃至六個ノ被害赤血球ヲ認メタリ又幼者中ニテモ「はつをこり」乃チ生後始メテ罹病セル者ニアリテハ寄生蟲ノ數ハ極メテ多ク一血球中ニ二個ノ寄生蟲ヲ認メルコト稀ナラス、次ニ他郷人ノ罹病者ニアリテハ其病ノ重キハ勿論血中ノ寄生蟲ノ多キ「は

つをこり」患者ニ同シ、本邦ニ於テ古來「マラリア」ヲ「せこり」ト稱スルモ亦一ニ童病ト名ケシハ主トシテ此病ノ幼者ニ多ケレハナラン

又丁年以上ノ者ニアリテ同地方人ニハ稀ナレトモ他郷ヨリ來リテ未タ「マラリア」ニ罹リシコトナキ人ニハ其發病ハ年齡ニ關セス、然カモ其寄生蟲ノ數多キヲ以テ見レハ「マラリア」モ亦他ノ傳染病ニ見ルカ如ク罹病者ニ不完全ナカラ不感受性ヲ賦與スルモノナラン

尙ホ同氏ノ「マラリア」ト蚊トノ關係ニ就テノ研究事項多々アレトモ學問的ノ事ニ屬スレハ此處ニハ省略スルモ要スルニ該病竈地ニ於ケル寄生蟲ハ皆三日熱寄生蟲ニシテ罹病者ノ多クハ未タ同病ニ罹リタルコトナキ他郷人並ニ地方人トシテハ概ネ小兒ニシテ大人ニハ少ナシ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

巨椋池ハ池底泥深ケレトモ水澄ミ池中蓮、菱、葦ノ如キ水草繁茂シ夏時蓮花滿開ノ頃京阪地方ヨリノ遊覽客多シ、然レトモ排出口少ク池水停滯シ從テ春ヨリ夏ニ到リテ蚊屬ノ發生夥シク附近住民ハ蚊蠅ヲ爲スニアラサレハ夕食ノ箸ヲ取ルコト能ハスト云フノ狀況ニ在リ、又此地方ハ山城國內ノ最低地ナレハ國境ニ重疊セル山脈ヨリ流下スル水ハ多ク此處ニ集リ附近一帶沼地ト成リ常ニ汚水停滯シ消化器傳染病ノ發生其他寄生蟲病者モ亦可ナリ多ケレトモ近時浚川改修工事行ハレ稍水ノ停滯ヲ

減少セリ、而シテ既記ノ如ク四郡下ニ於ケル「マラリア」病蔓延ハ殆ド地方病ト化シ居ルモ是等住民ハ「マラリア」ナルモノヲ左程重視セス所謂「キナエン」服用ノ民間療法行ハレ居ルヲ以テ醫師ノ門戸ヲ訪フ者少ナク從テ「マラリア」ニ因ル死亡者ナルモノ現ハレス、然カモ三日熱「マラリア」ナルヲ以テ概ネ全經過短ク自然治癒ヲ爲シ慢性脾臟腫或ハ肝臟腫大等ヲ呈セルモノヲ發見スルコト能ハス又特別ナル病名不明ノ疾患ノ如キハ認メ難キモ早産又ハ死産ノ此ノ地方ニ稍多キハ或ハ「マラリア」ト何等カノ關係アルニアラサルカト思考サル、節アリ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

病竈地ヲ有スル四郡ト他ノ郡部、市郡等トノ徵兵合格率ヲ比較スルニ於テハ左表ノ如ク著シキ差異アルヲ見出サス、之即チ當府下ニ於ケル「マラリア」ハ幼兒ニ多クシテ成長兒又ハ大人ニハ甚タ少ナク從テ壯丁検査成績ノ上ニ著シキ影響ヲ示サ、ルニ因ルナランカ

五、「マラリア」豫防撲滅ニ對ス施設

從來ニ於テハ何等ノ施設ナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係

七、將來ノ計畫

目下既ニ開始シツ、アル本府保健衛生調査ノ進行ト共ニ本病ニ關スル調査モ亦從テ進捗スルト同時ニ適切ナル豫防撲滅ノ方途ヲ講ゼントス

自大正三年
至大正六年壯丁合格者調査表

市郡	種別	自大正三年至大正六年壯丁合格者調査表	
		合格數	受檢壯丁千ニ付
京都	市	六、三六〇	四七八・八四
愛宕	市	一、四二八	七四七・六四
葛野	市	一、五一〇	六五三・六七
乙訓	市	七三三	六七九・九九
紀伊	市	一、四二二	六〇〇・八五
宇治	市	五二二	六二七・四五
世喜	市	七五〇	六二七・六一
喜喜	市	一、〇五七	六四二・五三
樂喜	市	一、二一八	六六五・二一
相樂	市	一、一一五	六一一・〇七
南桑	市		
北桑	市	六五八	六七二・七九
船井	市	一、五五一	六四〇・一〇
天鹿	市	一、六一二	六三二・六五
何鹿	市	一、二二一	五八九・五七
加佐	市	一、六六五	五三三・一三
與謝	市	一、四七九	六三二・九七
中野	市	五五六	六四三・五一
竹野	市	七八四	六五九・九三
熊野	市	二四二	四八二・〇七
計		二五、八六三	五七二・九〇

(四) 大阪府

當府下ニハ病竈地ト認ムヘキ發生地ナク之ヲ死亡數ニ見ルモ既往三年間ニ於テ市郡ヲ通シ漸ク十名ヲ出テサルノ狀況ナルヲ以テ該當スヘキ事項ナシ

(五) 神奈川縣

該當事項ナシ

(六) 兵庫縣

該當事項ナシ

(七) 長崎縣